

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2394500041		
法人名	社会福祉法人 かなえ福祉会		
事業所名	グループホーム すないの家尾張旭(ききょう)		
所在地	尾張旭市柏井町弥生256番1		
自己評価作成日	令和2年12月3日	評価結果市町村受理日	令和3年4月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ききょうユニットでは個々に出来る事を見つけ、食事準備が得意な方や掃除を手伝って下さる方を見極めながら役割分担をしています。  
 また、毎日のリハビリ体操を日課として行っていただいております、普段控えめな方だったり、男性利用者様も気兼ねなく参加していただけるような環境作りに努めています。  
 今後も体調を見ながら利用者や職員が心を通わせながら信頼関係を深めていき、毎日楽しく充実して過ごしていただけるように支援していきます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;Jigy_osvoCd=2394500041-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;Jigy_osvoCd=2394500041-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中区三本松町13番19号		
訪問調査日	令和3年1月19日		

当ホームの特徴として、同じ建物内に特養とショートステイを併設して運営していることで、利用者や家族の状況にも合わせて、ショートステイ、グループホーム、特養へと、その方に合わせて生活場所を移行することが可能であり、利用者や家族の安心感にもつながっている。今年度は、感染症問題があることで、地域の方との交流等の取り組みが困難になっているが、例年は、建物内の交流スペースも活用しながら、地域の方との交流の機会がつけられている。ホーム独自の取り組みとして、毎日の夕食に添える汁物をホームのキッチンで作る取り組みを継続しており、利用者も参加する機会をつくりながら、ホームでの生活が前向きなものになるような支援が行われている。また、医療面での連携についても、複数の医療機関との連携を行い、身体状態の重い方もホームでの生活を継続している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ※コロナ禍の為、対応不可	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ※コロナ禍の為、対応不可	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	常に確認できるように各社員証に理念を記述してあるものを印刷し、持ち歩けるようにしている。 また、事務所にも貼付し、確認できるようにしている。	運営法人の基本理念でもある「謙虚、献身、堅実」を支援の基本に考えながら、ホーム内に理念の掲示が行われている。また、ホームの理念及び職員の目標を職員の名札に入れる等、日常的な意識向上も行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	前年度までは保育園児との交流をしており、施設に訪れていたいたり、保育園の運動会にも参加させていた。また、ボランティアの方を招いたりして定期的に利用者様のお話を聴いていただいていた。今年度はコロナ禍の影響で実施できていない。	感染症問題があることで地域の方との交流が困難になっているが、事業所全体で町内会に加入していることもあり、定期的な情報交換等は行われている。また、例年は、事業所の交流スペースを活用した行事の取り組みが行われている。	地域の方との交流が困難になっている状況が続いていることもあるため、今後の感染症の状況もみながら、地域の方との交流が再開されることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	前年度までは施設では気軽に地域の方々の相談を365日受けられるように体制を整えていた。また運営推進会議で地域の方に対しお話をさせていた。今年度はコロナ禍の影響で実施できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議にて取り組み内容を口頭でお伝えしている他、写真を貼付して取り組み風景をお見せしている。(令和2年3月のみ) 地域の方のいただいた意見や要望に関しては参考にさせていただき、今後のサービス向上に努めている。今年度はコロナ禍の影響で1度しか行えていない。	今年度の会議については、書面による実施となっているが、例年は、関連事業所とも連携しながら会議の開催を行い、出席者にホームへの理解を深めてもらう取り組みが行われている。また、会議の際には市職員の出席も得られている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	制度変更の際に出向いたり、質問の際に答えていただくなどの関係を築いている。今年度はコロナ禍の影響で1度しか行えていないが、運営推進会議にも参加していただき、情報交換・情報共有に努めている。	市内の介護事業所が集まる連絡会が開催される際には、ホームからも参加する機会をつくり、情報交換等につなげている。また、関連事業所とも連携しながら地域包括支援センターとの情報交換等も行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	施設の建物上、フロア玄関が施錠扉になってはいるが、利用者の訴えがある場合は開錠できるように対応している。 また、利用者への声掛けを始め、身体援助・支援を行う際も身体拘束への意識を職員一人一人が持つようになっている。	身体拘束を行わない方針で支援が行われており、利用者がユニット間を移動できるように随時の対応が行われている。また、身体拘束に関する定期的な検討会や職員研修が行われており、振り返りにつなげている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	日々、職員各々が利用者の状態観察をする事で情報を共有し、必要であれば他部署とも話し合いを設けている。 定期的に勉強会を開催する事により、一段と意識づけができると思うが、中々継続的に行えていないのが課題ではある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	利用者の中で以前制度を利用されていた方がいた為、制度について学ぶ機会があったが、現在は不在な為、そのような機会が減少してきている。今一度管理者始め、職員 各々が理解する必要性がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	利用者・家族の意向を第一に考えた上での話し合いをしている。 また、リスクマネジメントについても説明をし了承いただいたり、改定等があれば随時書面にて説明・了承をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者に関しては日常生活の中で要望・困った事がないか随時確認している。 家族に関してはコロナ禍の影響で面会が満足にできていない状況の為、日々の状況を電話連絡させていただいたり、要望等があれば随時受付できるような環境作りに努めている。	現状、家族との交流が困難になっているが、リモート方式での面会を行う等、現状で可能な対応が行われている。家族からの要望等については、内容にも合わせて施設長やホーム管理者で対応している。また、毎月のホーム便りの作成が行われている。	家族との交流が困難な状況が続いており、家族が身内でもある利用者の暮らしぶりを把握することが困難になっている。ホームの情報発信の方法等、ホームの継続的な検討に期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者はユニットに出向く時間を設け、職員の意見や提案を聞いている。 また、施設代表者にも報告・相談し、助言をいただきその意見や提案に対しての解答をするように努めている。	毎月の職員会議や日常的な情報交換等で把握した職員間からの意見等を関連事業所とのリーダー会議等で検討し、ホームの運営につなげている。また、施設長による個人面談も行われており、職員一人ひとりの把握が行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年に2回自己評価表の記入、施設代表者の面談を行う事により、職員が抱えている課題の状況把握をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	前年度までは外部に研修を依頼したり、社外研修にも参加していたが、コロナ禍の影響で今年度はあまり実施できていない。 その為、社内研修に力を入れていく必要があるという課題を持っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	前年度までは地域のケアマネや家族との交流を図れるようにしたり、見学等の対応も随時行っていた。 今年はコロナ禍の影響で満足には実施できていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	本人が困っている事や不安な事がないように安心するまで話を聞くようにしている。 些細な事でも話ができるような空間づくりや、他愛のない会話の中でも安心感を得られるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	コロナ禍の影響で満足に面会ができていない現状の為、電話連絡をこまめに行い、その中で不安な事や要望等を傾聴するよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人や家族が必要としている支援を理解し対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	介護するにあたり一方的にならないよう暮らしを共にする者同士関係を重視している。 家族とは同じように接する事でお互いが気軽に話せる関係に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	前年度までは面会時に日頃の様子をお伝えしたり、要望等も聞くようしていたが、現在は面会制限がある為、電話連絡にて聞くようにし、今後についても家族と一緒に考える様に心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	前年度までは外出に関して出来る限り要望に応えるように心がけていたが、コロナ禍の影響で外出ができていない為、馴染みの人や場所などの関係の継続が難しくなっている。	利用者の中には、関連事業所に身内の方が利用者として生活する等、現状で可能な範囲で交流を継続する機会がつかれている。また、例年は、家族との外出も行われており、今年度も家族との話し合いを行いながら、身内の方の法事に出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	それぞれの役割を見付け、利用者同士が支え合えるよう、職員が間に入り支援している。 皆が楽しく過ごしていただけるように必要時は席の配置なども気を配るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービスが終了しても本人・家族への心配り・気配りを行い、必要時は出来る限りで相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者の生活状況(過ごし方、実際の行動観察)を把握した上で、普段の会話の中から希望等を伺っている。 困難な方の場合には苦痛や不安などがいないか確認している。	職員間で日常的に情報交換等を行いながら利用者に関する意向等の把握を行い、職員間での共有につなげている。また、毎月のカンファレンスが行われており、利用者の意向等を検討し、日常の支援につなげる取り組みが行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活行動の場面において、適切な生活が送れているか確認している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	左記のような確認及び把握事項をこまめに観察するとともに、他職員からも情報を集め観察内容に偏りが無い様に注意している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ケア上の課題や利用者の状態把握及びモニタリング等を十分に検討した上で介護計画を立案している。	介護計画を6か月での見直しが行われており、利用者の状態変化等に合わせた対応が行われている。また、日常的にも1日1ページの記録用紙に利用者の変化等を記録に残し、毎月のモニタリングにつなげる取り組みが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別の介護記録を確認した上で口頭でも利用者の様子や変化した事項を聞き取りしている。介護計画の見直し時期は特に留意している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	新たにニーズが発生、または変更された場合は関係各所と相談・連携して対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	新型コロナウイルスの状況を十分見ながら必要な地域資源を利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	受診に関しては利用者とその家族の意向を必ず確認した上で実施している。 受診結果も確認し、ケア方法に反映している。	訪問診療専門の医療機関との連携が行われている他にも、身体状態の重い方にも対応した医療機関との連携も行われており、利用者の健康状態に合わせた対応が行われている。また、協力医療機関の看護師との連携も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	細かい情報でも普段と違うと判断された場合は他部署ならび、他職員に報告している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際には規定の情報提供書に加えADL情報を中心に独自の情報提供書を使用し、円滑な治療の一助となる様に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	定期的に外部医療職者によるターミナルケア等に関する勉強会を開催している。 それらの知識を職場内で共有し、万が一の際はそれに沿って支援方法を構築している。	身体状態の重い方もホームでの生活を継続することができるように医療面での支援体制がとられているが、ホームの看取り支援については行われておらず、次の生活場所への移行が行われている。利用者の段階に合わせた家族との話し合いが行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	定期的にAED使用方法を救急隊員を招いて訓練していると同時に、AEDの場所や緊急時の人員配置、役割等を確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	初期消火訓練を定期的実施している。 非常食の保管場所も常に確認しており、万が一の際に行動できる様に努めている。	年2回の避難訓練については、関連事業所との合同で実施しており、夜間を想定した訓練や通報装置の確認も行いながら、非常災害時に合わせた対応につなげている。また、水や食料の備蓄品の確保の他にも、非常用発電機の設置も行われている。	地域の方との協力関係の取り組みについては、ホームの継続的なテーマでもある。今後のに向けたホームの取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人ひとり皆様の性格・性質により言葉かけの仕方を変えて接するよう心掛けている。 また、人格を尊重し、誇りやプライバシーに配慮して対応するよう努めている。	職員が「謙虚」な気持ちで利用者に接することができるように、日常的に管理者からの注意喚起等の取り組みが行われている。また、職員の接遇にもつながる研修や職員のメンタルヘルスに関する支援も行い、利用者への対応につなげている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	コミュニケーションを多くとる事で普段から自己決定が難しい方にもこちらから提案を出したりしながら思いを聞けるようにしたり、その人らしい生き方がある為、こちらが主体にならず、時間が掛かっても答えを待つことを大切だと思ひ支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	その人らしい生活があった事を忘れないようにレクリエーションや掃除・炊事等の支援と一緒にやっている。 都度その時々はどうされたいのか伺いながら毎日を過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	起床介助時などにその人に衣類を選んでいただいている。身だしなみを整える事で、一日を心身共に気持ちよく過ごしていただくよう取り組んでいる。 また、外部の理美容が1回/月に見える為、希望時に利用していただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	米研ぎやみそ汁作り等の食事準備、後片付け等を職員と一緒にやっている。 また、食事中は食事に集中していただきつつ、声を掛ける事により、楽しい空間づくりに努めている。	食事については、併設事業所の厨房から提供を受けているが、ホームのキッチンを活用した汁物を作る取り組みが行われており、利用者も参加する機会がつけられている。厨房とも連携しながら利用者の身体状態に合わせた食事形態の提供も行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量・水分量共にチェック表にて職員全員が把握できるようになっている。 食事・水分摂取が困難な方の中にはお見えになる為、少しずつ促しの声掛けをしたり、時には嗜好品を家族に依頼する事で摂取量を補っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後に口腔ケアを実施している。 個人の状況に合わせ、残存機能を活かしたケアにも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	一人ひとりの排泄パターンを把握する事に努めている。 もちろん都度変わる事もある為、職員間で共有しながら実施している。 拒まれる方に関しては時間を空けて対応するなどの工夫を行っている。	排泄に関する記録を「暮らしのシート」に残し、職員間で情報交換を行いながら、一人ひとりに合わせた排泄支援につなげている。居室にトイレが設置されていることで、利用者の身体状態に合わせたベッドの配置等を行い、排泄状態の維持、改善につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分の確保や排便状況を記録に残し毎日チェックしている。 予防にヤクルトやヨーグルトを提供をしたり、毎日のリハビリ体操やフロア内の散歩をして体を動かしていただくよう取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	本人の意思を尊重し、状況に応じて楽しく入浴できるように支援している。 その日やその場で拒まれる利用者様には強制することなく時間や日にちをずらしたりして対応している。	利用者が週2～3回の入浴ができるように支援が行われており、入浴を拒む方にも声かけを行いながら、定期的な入浴に取り組んでいる。また、併設事業所に寝浴が設置されていることで、身体状態の重い方の入浴支援も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中は洗濯物たたみ、掃除、洗い物等、それぞれの役割をしていただき、夜ゆっくりと過ごせるよう取り組んでいる。 また、それぞれの就寝時間を職員間で把握し対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬介助は事故防止の為に職員2人分担しながら行っている。 本人の病状・薬の内容は薬情にて確認している。また、嘱託医・併設特養看護師とも連携し、内服薬の変更があった場合には申し送り等の徹底をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	掃除をする事やお喋り、人の世話をする事に張り合いを感じる方が見えます。 周りの方々と一緒に何げなくする日常事が楽しみとなっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ禍の影響で外出支援ができていない現状だが、その中でも天候の良い日等で換気を行う事で外気に触れて頂けるような環境づくりに努めている。 また、入浴時等の移動で窓より外を眺めていただき、気分転換としても努めている。	感染症問題があることで利用者の外出が困難になっており、現状、利用者の外出が行われていない状況が続いている。例年は、季節等に合わせた外出行事や市内の公園のレストランで夕食を行う取り組みが行われている。	利用者の外出が困難な状況が続いていることもあるため、新たに舗装されたホーム建物の周りの通路を散歩する機会を増やす等、利用者がホームの外に出る機会が増えることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	家族協力のもと、財布を所持されている方もおり、紛失などに十分注意しながらパン・お菓子の購入日に気兼ねなくお買い物を楽しんでいただけるように環境を整えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族の了解を得て必要に応じて連絡が取れる様に体制づくりをしている。 コロナ禍の影響で外出が困難な為、電話での対応で家族との絆を感じていただけるよう努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	時間状況に合わせた環境作りに努めている。 共用スペース、居室温度は常に利用者に伺い適切な室温となる様に努めている。	ホームの共用空間は限られた広さとなっているが、利用者の作品を掲示する等、アットホームな雰囲気づくりが行われている。フロアの外階段のスペースにプランターを置いて、利用者と植物を育てる取り組みも行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	気の合う方同士で気さくに話ができるように席の配置に考慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	以前から使い慣れた馴染みの物に関しては居室に置かれ、以前同様の生活が出来る様に工夫している。 また、本人・家族と相談し、本人が居心地よく安全に過ごしていただけるように配慮したレイアウトを工夫している。	居室には、利用者の入居前からの使い慣れた家具類や好みの物等の持ち込みが行われており、一人ひとりに合わせた居室づくりが行われている。また、利用者の中には身内の方の写真や自身の作品を飾っている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	場所がわからない方の為に居室にネームプレートを置いたり、トイレも本人がどこに行けば良いのかわかるように工夫している。		